

素直な心

代表取締役社長 森戸 祐幸

人間、生まれた時は誰でも素裸である。成長するにしたがつて、下着をつけ、ある人はきれいな服を着、ある人は妙な服を着て外見を装う。かくして、衣装はそれぞれの時代、それぞれの年代にマッチしたファッションとなる。

人の心も、年とともに様々な衣装をつけるようになる。私は、仕事の関係上、いろいろな人と知り合うチャンスが多い。学生時代、サラリーマン時代、そして現在まで、おそらく数千人、いや一万人以上の人と会ったかも知れない。その中で、特に印象に残っている人、今でも何らかのつき合いのある人を数えれば数百人に絞られると思う。

何故、この数百人の人たちと今でも交流があるのか、と改めて考えてみると、それは、お互いに心が通じ合う「何か」があるからである。心が通じ合うということは、歯に衣を着せずに裸の心でぶつかって、お互いに信じ合い、共鳴し合い、また尊敬し合って、つき合うことができるということである。お互いに励ましあったり、時には喧嘩したりして、自分に非があれば素直に反省し、そしてお互いに成長していくことができる、ということである。お互いの心の成長がないままつき合

っていても、それはいつか途絶えてしまう。心の成長というものは、素直な心を持って生きていけば、それぞれの時代、年代、経験に應じて自然に育まれるものなのだ。

年に二度ほど、学生時代の同窓会があり、いつも楽しみに出かけるのだが、実はこの時ほど人の成長の姿がはつきりと現われることはない。残念ながら、若い頃、誰もが持っていたはずの覇気が、みじんも感じられない人



がたくさんいる。上司の悪口を言う人、責任感を逃れ適当に生きている人、過去の概念にとられて進歩のない人……。マイナーな心になっていく人が非常に多く、こういった人にもう会いたくなくなるものである。

一方、毎日が充実している人、実行力のある人、あることに情熱とロマンをかけている人、わからないことでも素直に聞き、勉強しようという人、こうした人には、まわりの人を惹きつける何かがあり、長くつき合っていたいな、と思うものである。

さて、人間は、自分で気がつかないうちにうぬぼれることがあるが、この、うぬぼれは、たまたまの経験とひとつかみの自信から生まれる。真の友人は、こういう時、忠告してくれるが、当の本人はうぬぼれの気持ちが強いため、その忠告の真意が解らず、後になってその忠告が本当に自分のためであったことが解る、ということもよくあるようだ。その時に大切なことは、素直な気持ちで反省するということである。また、自分が思い、言わんとしていることや行おうとしていることが周囲の人に伝わらない、ということは誰にでもあると思う。そんな時、人は苛立ちや孤独感を持つものだが、いつまでも、そこにとどまらず、もう一度、自分の素直な心を持ってコミュニケーションすれば必ず解り合えるはずである。人間の成長や、よりよき人間関係、コミュニケーションにとって、「素直な心」こそが、まさに大切なのである。